



2019年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年5月13日

上場会社名 ロジザード株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4391 URL <https://www.logizard.co.jp/>
 代表者 (役職名)代表取締役 (氏名)金澤 茂則
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理部長 (氏名)三浦 英彦 (TEL)03(5643)6228
 四半期報告書提出予定日 2019年5月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年6月期第3四半期の連結業績(2018年7月1日~2019年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年6月期第3四半期	1,093	6.5	170	35.3	166	35.3	113	44.5
2018年6月期第3四半期	1,026	—	125	—	122	—	78	—

(注) 包括利益 2019年6月期第3四半期 113百万円(44.9%) 2018年6月期第3四半期 78百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2019年6月期第3四半期	円 銭 35.89	円 銭 34.01
2018年6月期第3四半期	30.42	—

(注) 1. 2018年6月期第3四半期の対前年同四半期増減率については、2017年6月期第3四半期の四半期連結財務諸表を作成していないため、記載しておりません。

2. 当社は、2018年7月4日に東京証券取引所マザーズに上場したため、2019年6月期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、新規上場日から当第3四半期連結会計期間末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2019年6月期第3四半期	百万円 1,189	百万円 998	% 83.9
2018年6月期	701	450	64.1

(参考) 自己資本 2019年6月期第3四半期 998百万円 2018年6月期 450百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計年度に係る連結財政状態については、当該会計基準を遡って適用した後の指標等となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2018年6月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2019年6月期	—	0.00	—		
2019年6月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無



3. 2019年6月期の連結業績予想（2018年7月1日～2019年6月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,304	△3.1	166	13.2	165	17.9	105	9.5	33.28

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 2019年6月期（予想）の1株当たり当期純利益は、公募株式数（400,000株）及びオーバーアロットメントによる売出しに関する第三者割当増資分（124,500株）を含めた予定期中平均株式数により算出しております。

注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2019年6月期3Q	3,186,000株	2018年6月期	2,661,500株
② 期末自己株式数	34株	2018年6月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	3,161,353株	2018年6月期3Q	2,588,403株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 日付の表示方法の変更

第2四半期より、日付の表示を和暦から西暦へ変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の世界経済は、米国の保護貿易政策と米中貿易戦争による中国実質経済成長率の減速が懸念されるなど先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社サービスの主たる顧客にあたる流通業界においても、主要な通販アイテムであったアパレル商材などで、レンタル型モデルへの取組が見られるなど、リアルタイムな在庫管理や、より複雑化する倉庫内作業への対応など省力化自動化を目的とした投資意欲は積極的に推移していくものと思われま

す。このような状況の中で、当第3四半期連結累計期間は、ロジガードZEROに対する機能追加を推進するとともに、将来的な新サービス展開につながる企画・開発を専門的に行う部門を開設し、継続して製品・サービスの開発に取り組む体制を構築いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,093,532千円(前年同四半期比6.5%増)となりました。利益につきまして、期初予想通り、粗利率のよいクラウドサービスを積極的に増加させた事により、営業利益170,506千円(前年同四半期比35.3%増)、経常利益166,256千円(前年同四半期比35.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益113,781千円(前年同四半期比44.5%増)となりました。

なお、当社グループは、在庫管理システムの単一セグメントであるため、セグメント別の記載を行っていませんが、サービス別の業績は、以下のとおりであります。

(クラウドサービス)

当サービスにおいては、新規取引先の増加などにより順調に推移し、当第3四半期連結累計期間における売上高は753,718千円(前年同四半期比16.7%増)となりました。

(開発・導入サービス)

当サービスにおいては、将来的なクラウドサービスの収益獲得につながる既存製品の機能追加にリソースを振向ける方針としたことにより、当第3四半期連結累計期間における売上高は268,322千円(前年同四半期比11.9%減)となりました。

(機器販売サービス)

当サービスにおいては、ハンディターミナルの買い取り案件が、当第3四半期連結累計期間では少なかった事により、当第3四半期連結累計期間における売上高は71,491千円(前年同四半期比5.9%減)となりました。

※1：MaaSとは、「Mobility as a Service(マース)」の略称。色々な種類の交通サービスを、需要に応じて利用できる1つの移動サービスに統合することです。

(2) 財政状態に関する説明

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比べて487,336千円増加し、1,189,209千円となりました。

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、前連結会計年度末に比べて455,496千円増加し、969,179千円となりました。この主な要因は、公募増資及び第三者割当増資があったことにより現金及び預金が増加したことに由来するものであります。

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、前連結会計年度末に比べて31,840千円増加し、220,029千円となりました。この主な要因は、主力製品であるロジガードZEROのバージョンアップによりソフトウェア仮勘定を計上したことによるものであります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比べて60,468千円減少し、191,091千円となりました。

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、前連結会計年度末に比べて52,128千円減少し、184,459千円となりました。この主な要因は、未払賞与を支払ったことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、前連結会計年度末に比べて8,340千円減少し、6,632千円となりました。この要因は、借入金の返済により長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を除く)が8,340千円減少したことによるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べて547,804千円増加し、998,117千円となりました。この主な要因は、公募増資及び第三者割当増資があったことにより資本金及び資本準備金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年6月期の連結業績予想に関しましては、2018年8月13日に公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	313,777	764,179
売掛金	135,553	152,902
商品	1,039	2,683
仕掛品	45,945	17,637
その他	18,334	33,126
貸倒引当金	△967	△1,350
流動資産合計	513,683	969,179
固定資産		
有形固定資産	25,620	23,615
無形固定資産	140,000	174,063
投資その他の資産		
その他	23,259	22,667
貸倒引当金	△691	△317
投資その他の資産合計	22,567	22,350
固定資産合計	188,189	220,029
資産合計	701,872	1,189,209
負債の部		
流動負債		
買掛金	24,396	23,009
1年内返済予定の長期借入金	12,048	10,842
未払法人税等	34,072	36,364
賞与引当金	277	18,897
その他	165,792	95,344
流動負債合計	236,587	184,459
固定負債		
長期借入金	14,972	6,632
固定負債合計	14,972	6,632
負債合計	251,559	191,091

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	73,661	290,804
資本剰余金	66,163	283,306
利益剰余金	311,355	425,136
自己株式	—	△69
株主資本合計	451,180	999,178
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△868	△1,060
その他の包括利益累計額合計	△868	△1,060
純資産合計	450,312	998,117
負債純資産合計	701,872	1,189,209

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年7月1日 至2018年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年7月1日 至2019年3月31日)
売上高	1,026,586	1,093,532
売上原価	578,925	561,755
売上総利益	447,660	531,777
販売費及び一般管理費	321,690	361,270
営業利益	125,970	170,506
営業外収益		
受取利息	35	47
受取手数料	33	—
保険解約返戻金	—	1,455
為替差益	12	—
営業外収益合計	81	1,503
営業外費用		
支払利息	487	232
株式交付費	—	3,766
株式公開費用	2,000	1,500
支払手数料	511	—
その他	175	253
営業外費用合計	3,174	5,752
経常利益	122,877	166,256
税金等調整前四半期純利益	122,877	166,256
法人税等	44,135	52,475
四半期純利益	78,741	113,781
親会社株主に帰属する四半期純利益	78,741	113,781

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2018年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)
四半期純利益	78,741	113,781
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△362	△192
その他の包括利益合計	△362	△192
四半期包括利益	78,378	113,588
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	78,378	113,588

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2018年7月4日に東京証券取引所マザーズに上場し、上場にあたり2018年7月3日に公募増資による払込を受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が165,600千円、資本準備金が165,600千円増加しました。また、2018年7月31日付で、野村證券株式会社からの第三者割当増資の払込を受け、資本金が51,543千円、資本準備金が51,543千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が290,804千円、資本準備金が283,306千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。